

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

事務局便り

No.24

2009年4月1日

会長 安井 泉 事務局 〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部英文学科
吉良文孝研究室内 tel. 03-5317-9709 / fax 03-5317-9336 email: kira@chs.nihon-u.ac.jp
郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会
ホームページ: <http://english.chs.nihon-u.ac.jp/segu/>

◆ 日本学術会議協力学術研究団体の指定

当学会は、昨年12月25日付で日本学術会議協力学術研究団体としての指定を受けましたのでここにご報告いたします。

◆ 第17回大会開催案内

第17回大会は下記の要領で京都市で行われます。

日時：2009年10月24日（土）

会場：龍谷大学（大宮学舎）

[〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1 JR「京都」駅から市バス約5分、あるいは、阪急京都線「大宮」駅から市バス約5分。（「京都」駅から徒歩約12分）]

[http:// www.ryukoku.ac.jp](http://www.ryukoku.ac.jp)

今回のシンポジウムは、「大規模コーパスを英語研究に有効利用するための留意点について」をテーマとして準備中です。司会と講師は以下のとおりです。ご期待ください。

司会 大室剛志（名古屋大学）
講師 井上永幸（徳島大学）
講師 滝沢直宏（名古屋大学）
講師 深谷輝彦（椋山女学園大学）

◆ 第5回英語語法文法セミナー

標記セミナーが8月7日に大阪梅田の関西学院大学大阪梅田キャンパスで開催されます。詳細は決まり次第、学会のHPおよび雑誌などに掲載する予定です。今年のテーマは、「『使える英文法』と『英語教師のための一英語の問題解決法』」です。奮ってご参加ください。

◆ 第9回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長故小西友七氏の寄付金を基金とした「第9回英語語法文法学会賞」（2007年4月1日～2008年3月31日までに出版された単行本が対象）について、今回は「該当者なし」という結果になったことが第16回大会において安井会長より報告されました。

◆ 第10回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第10回学会賞対象図書のご推薦を依頼いたします。対象図書は2008年4月1日～2009年3月31日までに出版された単行本です。自薦、他薦を問いませんので、同封の推薦用紙に記入の上、fax あるいは郵便で2009年5月10日までに事務局（吉良文孝）宛にお送りいただくか、推薦の内容を email で事務局までお知らせください（email: kira@chs.nihon-u.ac.jp, fax 03-5317-9336）。

英語語法文法学会賞の授賞に関する規定
(関係部分一部抜粋)

(授賞)

- 第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」（以下「委員会」という）の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。
- 2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。
 - 3 授賞式は年次大会において行う。
 - 4 受賞者に対しては、賞とともに賞金10万円を贈呈する。

◆ 第17回大会研究発表者募集

会員の方は下記の発表応募規定に従い、事務局（吉良文孝）宛に奮ってご応募下さい。

<研究発表応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 発表時間は25分以内(別に質疑応答が10分)とする。
3. 発表要旨は、A4判32字×25行で4枚以内(原稿用紙使用の場合はA4判400字詰め横書き8枚以内)にまとめて3部を提出する(コピーで可)。ただし、参考文献表は枚数に含めない。論文冒頭には題名のみを記し、名前・所属は別紙に。
4. 論文題目、氏名(ふりがな)、所属・職名、住所、電話番号、fax番号、email addressを明記した別紙を1枚添付する。
5. 同時に、前項の4と同じ内容と発表要旨のfile (MS WordあるいはPDF)をemailで事務局宛に送ること。emailの件名は「研究発表応募」とし、発表要旨のfileは添付fileとする。emailの宛先:kira@chs.nihon-u.ac.jp
6. 応募締め切りは7月25日(土)必着とする。
7. 郵送する発表要旨は、封筒の表に「研究発表応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局(〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部英文学科吉良文孝)宛に送付する。
8. 選考及び研究発表の割り振りは大会準備委員会が行い、結果は8月中旬までに通知する。
9. 採用者は発表要旨(500字以内)を8月22日(土)までに、予稿集の原稿を9月24日(木)までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

◆ 第17回大会語法ワークショップ発表者募集

第17回大会の「語法ワークショップ」の発表者を募ります。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその語・構文の統語上、意味上、あるいは語用論上の特性を明らかにすることを目的とします。語法ノートの的なもので結構ですから、会員の方は次の応募規定に従い、事務局(吉良文孝)宛に奮ってご応募ください。

<語法ワークショップ応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 大会当日の午前10時30分ごろから12時までが割り当てられ、発表時間は一人12分以内(別に質疑応答が5分)とする。
3. 発表要旨は、A4判32字×25行で4枚以内(原稿用紙使用の場合はA4判400字詰め横書き8

枚以内)にまとめて3部を提出する(コピーで可)。ただし、参考文献表は枚数に含めない。論文冒頭には題名のみを記し、名前・所属は別紙に。

4. 論文題目、氏名(ふりがな)、所属・職名、住所、電話番号、fax番号、email addressを明記した別紙を1枚添付する。
5. 同時に、前項の4と同じ内容と発表要旨のfile (MS WordあるいはPDF)をemailで事務局宛に送ること。emailの件名は「語法ワークショップ応募」とし、発表要旨のfileは添付fileとする。emailの宛先:kira@chs.nihon-u.ac.jp
6. 応募締め切りは7月25日(土)必着とする。
7. 郵送する発表要旨は、封筒の表に「語法ワークショップ応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局(〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部英文学科吉良文孝)宛に送付する。
8. 選考及び発表の割り振りは大会準備委員会が行い、結果は8月中旬までに通知する。
9. 採用者は発表要旨(500字以内)を8月22日(土)までに、予稿集の原稿を9月24日(木)までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

【応募上の注意】

研究発表とワークショップの両方に同時に応募することはできません。

◆ 役員の異動

昨年8月8日開催の編集委員会において、次期編集委員長に現編集委員大室剛志氏(名古屋大学)が推薦され、続く運営委員会にて承認されました。任期は2009年4月1日より。

◆ 『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』(第16号)への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

なお、最近インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

<『英語語法文法研究第16号』の論文・語法ノートへの投稿規定>

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは**7月10日(木)(必着)**、採否決定を8月中旬、刊行を12月初旬とする。
4. 論文の場合、長さは33文字×30行、16枚以内とする。語法ノートの場合、長さは33文字×30行、6枚以内のものとする。
5. 論文・語法ノートはパソコンで、A4用紙にプリントアウトしたものを4部(コピー可)提出すること。また、氏名と略歴(連絡先の住所、電話番号、fax番号、email addressを含む)は、論文とは別紙で付けること。
6. 前項5と同じもののfile(MS WordあるいはPDF)をemailに添付して、大室剛志編集委員長(omuro@gsid.nagoya-u.ac.jp)宛に送ること。なお、件名を「投稿」とすること。
7. 入力に関しては、既刊号の論文を参考にし、特に以下の点に留意すること。
 - a. 例文の前後に1行ずつ空白行を設けること。
 - b. 各節には見出しをつけ、節の前に1行ずつ空白行を設けること。
 - c. 外字、機種特有の文字・記号は使用しないこと。
 - d. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
 - e. 2桁以上の数字は半角を用いる。
 - f. 小説・論文の出典は下のように表記する。
(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
8. 注は脚注とする。
9. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。

Chomsky, N. 1986a. *Barriers*. Cambridge, Mass: MIT Press.

Chomsky, N. 1986b. *Knowledge of Language: Its Nature, Origin, and Use*. New York: Praeger.

Hopper, P. J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.

柏野健次. 1993. 「easyタイプの形容詞の3つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二(編)『英語基礎語彙の文法』

145-154. 東京: 英宝社.

川本一郎. 1975. 「前置詞について」『英語青年』第120巻 第5号, 23-26.

Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.

島村礼子. 1990. 『英語の語形成とその生産性』東京: リーベル出版.

10. 氏名と略歴(連絡先の住所、電話番号、fax番号、email addressを含む)は、論文とは別紙で付けること。
11. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
12. 著者校正は1回とし、変更は字句の修正のみとする。
13. 原稿料は支払わない。
14. 送付先: 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院国際開発研究科 大室剛志 (「投稿論文在中」と朱記のこと) まで。

【応募上の注意】

学会誌への二重投稿、研究発表への二重応募はお控えください

◆ 英語語法文法学会第16回大会

英語語法文法学会第16回大会は2008年10月18日(土)、静岡県立大学にて開催されました。活発な議論、討論が行なわれ盛会でした。開催校委員の坪本篤朗、武田修一先生を始め、お手伝いいただいた静岡県立大学の教員・院生の方々にもお礼を申し上げます。

ワークショップ (一般教育棟1階 2103講義室)

10:20~12:00

司会 中山 仁 (福島県立医科大学)

- ・状態事象の現在完了形について
傅 建良 (関西学院大学大学院)
- ・not so much A as B 構文とその派生形について
長久保礼一 (名古屋大学大学院)
- ・義務的前置詞句を取る英語の中間構文
松家由美子 (東北大学大学院)
- ・no と共起する比較級と「クジラの公式」について
明日誠一 (青山学院大学非常勤)
- ・The Two Verbs *Leave*
出水孝典 (神戸学院大学准教授)
- ・Marry with / Get married with の容認性
廣江 顕 (尚絅大学)

研究発表 13:00~14:45

第一室（一般教育棟1階 2106 講義室）

司会 小泉 直（愛知教育大学）

- ・ Way 構文に生起する one's way の意味機能について 吉川裕介（京都外国語大学大学院）
- ・ “one and one's NP”構造：動詞 *Envy* との関連性 松元豊子（神戸市外国語大学大学院）
- ・ The trees sang with birds 型表現の意味分析と使用実態 金子輝美（愛知淑徳大学非常勤）

第二室（一般教育棟1階 2107 講義室）

司会 大竹芳夫（新潟大学）

- ・ 補文標識 *that* の有無と動詞の意味解釈—*doubt* と *suspect* に焦点をあてて— 土屋知洋（関西学院大学大学院研究員）
- ・ 法表現 *be bound to* の意味論的考察 衛藤圭一（京都外国語大学非常勤）
- ・ 事象命題と主述命題 一條祐哉（日本大学）

シンポジウム（一般教育棟1階 2103 講義室）

15:35~17:45

テーマ 「前置詞の意味を考える」

司会 和田四郎（神戸市外国語大学）

- ・ 「前置詞 *to* と *in* の意味的相違」 和田四郎（神戸市外国語大学）
 - ・ 「前置詞 *for* の意味—*to* の意味と対比して—」 嶋田裕司（群馬県立女子大学）
 - ・ 「前置詞句主語の認可条件について」 松原史典（高知大学）
- コメンテーター 中右 実（麗澤大学）

懇親会 18:00~20:00

場所：学生ホール

◆ 新入会員紹介

新井永修（仁愛女子高等学校）

大澤 舞（筑波大学大学院）

梶田幸栄（千葉大学）

久保田正人（千葉大学）

小島さやか（日本大学大学院）

嶋田裕司（群馬県立女子大学）

十亀有紀（都立竹早高等学校）

高橋恭平（名古屋大学大学院）

高橋邦年（横浜国立大学）

武田修一（静岡県立大学）

鴫崎敏彦（学習院大学非常勤）

西村祐一（名古屋大学大学院）

廣江 颯（尚綱大学）

傅 建良（関西学院大学大学院）

福安勝則（鳥取大学）

藤川勝也（大阪市立大学大学院）

松井寛子（筑波大学大学院）

宮田裕子（関西大学大学院）

楊 徳民（神戸市外国語大学大学院）（50音順）

◆ 会費納入のお願い

2009年度（2009年4月~2010年3月）会費4,000円を同封の振替用紙でお支払いください。申し訳ありませんが、振替手数料をお支払いください（郵便振替料金は120円（ATMからは80円）です）。金額欄が8,000円になっている方は、昨年度分未納ですので、併せてお支払いいただきますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員の資格が失効します。なお、住所・所属に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添え下さい。

◆ 新刊紹介

事務局にお知らせいただいた会員の刊行物を逐次紹介いたしますので、事務局宛お送りください。

編集後記

2008年4月より安井 泉新会長の体制のもと、事務局も日本大学文理学部英文学科に移転いたしました。英語語法文法学会は1993年に設立され、以来、事務局はずっと関西に置かれていました。関西から関東地区へと事務局が移るのは初めてのことです。事務局の移転は、第15回大会当日に開催された運営委員会の議を経て決定されました。大会終了後の懇親会場において今後の学会運営について安井会長と話し合った折、どちらも口をついて出たのが「安井新体制のもとで最初にする大きな仕事は、わが学会を日本学術会議の協力学術研究団体として登録しよう！」というものでした。今号 Newsletter の冒頭にご報告しましたように、昨年12月、当学会はこれまでの活動実績を評価され協力学術研究団体としての指定を受けました。しかし、言うまでもありませんが、この指定は、ここ2、3年の学会活動が評価されたものではありません。早いもので、年次大会もこの秋に開催される大会で17回を数えます。当学会が学術研究団体として認められたのは、学会設立時から学会の運営に携わってこられた先生方をはじめとして、その後に続く関係の諸先生のご尽力、加えて、会員の皆様方の学会へ

のご理解とご協力、それらすべてが結実したものと考えております。日本学術会議からの朗報は、年が明けてはじめての出講日に知ったのですが、机の上に置いてある正式書類を手にしたときは喜びで小躍りしました。これもひとえに、関係の皆様方のご支援あつてのことと事務局一同心より感謝申し上げます。

事務局が移転して1年が経ちますが、Newsletterの場ですべての会員の皆様にご挨拶するのはこれが初めてです。新事務局にも、これまでと同様、会員の皆様方のご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。(吉良文孝)